

# New Horizon 第 11 回 Lessons

## Lesson 11-1: 一般動詞の肯定文② (he / she / it / this / that)

主語が he / she / it / this / that (または、Kenta / Sakura / that car のように、これらの代名詞に言い換えられる名詞) の時の、現在形の一般動詞の文は「**3**人称・**単**数・**現**在形」というところから、「**3 単現**」と言われることがあります。3 単現の肯定文は、主語が I / you / we / they の時と基本的に同じなのですが

「一般動詞の語尾に s または es を付ける」

といった特徴があります。

### 【一般動詞の肯定文 (現在形②) <he / she / it / this / that> : 基本の形】

He

She

It + 一般動詞 s/es (+目的語) (+～) .

This (○○)

That (○○)

- <例> He runs five days a week. (彼は、週に 5 日走ります)  
She teaches science. (彼女は科学を教えます)  
That dog likes this ball. (あの犬はこのボールが好きです)  
My brother \*wants to play soccer. (私の兄はサッカーをしたいと思っています)

**\*want to ~ の場合、s や es がつくのは、want のみとなる。**

<例> He wants to eat this. (彼はこれを食べたいと思っています) <He wants to eats this. = ×>

### 【一般動詞に s / es を足すルール】

#### 1. s を足す場合 = **大部分の一般動詞**

- <例> He runs five days a week. (run → runs になる) <彼は週に 5 日走ります>  
She walks \*to school. (walk → walks になる) <彼女は歩いて学校に行きます>

**\*go to school 同様、school は、基本的に the school / her school にはならないので注意。**

#### 2. es を足す場合 = **基本的に名詞の複数形に es をつけるルールと同じ**

##### 《名詞の複数形に es をつけるルール》

- ・ 単語の最後の文字が **s / o** (ただし「子音 + o」) , **x, sh, ch** の時  
<覚え方: ソックス(sox)をシュツチュ(sh, ch)と洗う>
- ・ 単語の最後の文字が「子音 + y」の時は、y → i にして es

<例> He teaches math. (teach → teaches になる)

<彼は数学を教えます>

Yoshiko does her homework in her room. (do → does になる)

<ヨシコは、彼女の部屋で宿題をします>

She studies Japanese with Jiro. (study → studies になる)

<彼女は日本語をジロウと勉強します>

### 3. 例外の形: have → **has** (haves =×)

<例> Kenji has a dog. (have → has になる) <ケンジは犬を飼っています>

\*Okinawa has beautiful beaches. (have → has になる)

<沖縄には美しい浜があります>

\*「〇〇 (施設 / 場所 / 部など) にある」という場合、動詞には **have** がよく使われる。

<例> My city **has** three big libraries. (私の市には3つの大きな図書館があります)

## Lesson 11-2: 一般動詞の否定文② (he / she / it / this / that)

主語が he / she / it / this / that の際の、一般動詞の否定文は、主語が I / you / we / they の一般動詞の否定文と似ているのですが、2点注意しないとイケない点があります。

1. do not (don't) を **does not (doesn't)** にする。
2. 一般動詞を**原形**にする (=一般動詞についている s/es を取る)

### 【一般動詞の否定文② (he / she / it / this / that) : 基本の形】

He

She

It + **does not (doesn't)** + 一般動詞の原形 (+目的語) (+～) .

This (〇〇)

That (〇〇)

<例> He does not (doesn't) run every morning. (彼は、毎朝は走りません)

My dog does not (doesn't) like this ball. (私の犬はこのボールが好きではありません)

She does not (doesn't) live in \*the Philippines. (彼女はフィリピンには住んでいません)

\*フィリピンは、基本的に the Philippines と the がつき、複数形なので注意。

### 【一般動詞の否定文② : 作り方】

ステップ1 : **肯定文**を作る。

ステップ2 : 動詞の前に **does not** (または **doesn't**) を足す。

ステップ3 : 一般動詞を**原形に戻す** (= s/es を取って、**元の形に戻す**)。

<例：彼は、毎朝は走りません>

ステップ1：肯定文を作る。 → 彼は毎朝走ります。

He runs every morning.

ステップ2：動詞の前に does not（または、doesn't）を足す。

He does not (doesn't) runs every morning.

ステップ3：一般動詞を原形に戻す（= s/es を取って、元の形に戻す）。

He does not (doesn't) run every morning.

### Lesson 11-3: 一般動詞の疑問文② (he / she / it / this / that)

一般動詞の疑問文②は、基本的な形は主語が I / you / we / they の時と同じです。ただし、Do ~? の形ではなく、Does ~? の形になります（この際、肯定文の時に一般動詞についていた s や es は、なくなるので注意しましょう）。

#### 【一般動詞の疑問文② (he / she / it / this / that) : 基本の形】

he  
she  
Does + it + 一般動詞の原形（+目的語）（+〜）？  
this (〇〇)  
that (〇〇)

\*疑問文の先頭にある Does は「する」という意味の do とは違うので注意。

<例> Does he like tennis? (彼はテニスが好きなのですか)

Does Ikumi drink coffee every morning? (イクミは毎朝コーヒーを飲むのですか)

#### 【一般動詞の疑問文② : 作り方】

ステップ1：一般動詞の「肯定文」を作る。

ステップ2：文頭に Does を足し、最後を ? にする。

ステップ3：一般動詞についていた s / es を取る。

<例1：彼はテニスが好きなのですか>

ステップ1：一般動詞の「肯定文」を作る。 → 彼はテニスが好きです。

He likes tennis.

ステップ2：文頭に Does を足し、最後を ? にする。

Does he likes tennis?

ステップ3：一般動詞についていた s/es を取る。

Does he like tennis?

<例2：イクミは毎朝コーヒーを飲むのですか>

ステップ1：一般動詞の「肯定文」を作る。→ イクミは毎朝コーヒーを飲みます。

Ikumi drinks coffee every morning.

ステップ2：文頭に Does を足し、最後を？にする。

Does Ikumi drinks coffee every morning?

ステップ3：一般動詞についていた s/es を取る。

Does Ikumi drink coffee every morning?

### 【疑問文の答え方】

答え方は、基本的に Yes / No の2種類。

Yes, 代名詞 does.

No, 代名詞 \*doesn't.

\* doesn't を使うのが一般的だが、does not と分けることも可。

Does ~? なので、does で答える。

do で答えないように注意。

<例> Does he play soccer?

Yes, he do. =×

<例1>

Does he like tennis?

はい → **Yes, he does.**

いいえ → **No, he doesn't. (No, he does not.)**

<例2>

Does Ikumi drink coffee every morning?

はい → **Yes, she does.**

いいえ → **No, she doesn't. (No, she does not.)**

### 【ポイント！】

**what / how** などの疑問詞が付く場合は、他の疑問文同様 “**疑問詞 + 疑問文？**” となる

Does ~? に what / how などの疑問詞が付く場合、他の疑問文の時同様 “**疑問詞 + 疑問文？**” の形となるため “**疑問詞 + does + 主語 + 一般動詞 + ~？**” となる。

<例> What does he want? — He wants two black pens.

(彼は何を欲しがっているのですか。 — 彼は2本の黒いペンを欲しがっています)

## Lesson 11-4: カンマが使われる表現

### 1. 名詞, ～～ = 名詞の ～～ / 名詞 (～～)

<例> She is my sister, Kayoko. <彼女は私の妹のカヨコです / 彼女は私の妹 (カヨコ) です>

#### 〔補足説明〕

カンマが使われない場合もある。また“名詞, ～～”の後にカンマを打ち、文を続けることもある。

<例> My sister Kayoko is tall. <私の妹のカヨコは背が高いです>  
My sister, Kayoko, is tall.

### 2. ○○ (市・県などの地名), △△ (県・国など) = △△ (の国) の○○ (地名)

<例> I live in Kanagawa, Japan. <私は、日本の神奈川に住んでいます>

#### 〔補足説明〕

「○○の中の△△」のように、△△の方が規模が大きくなる。

### 3. 文1, and 文2 = 文1, そして 文2

<例> I play the piano, and she plays the violin.  
<私はピアノを弾き、彼女はバイオリンを弾きます>

#### 〔補足説明〕

接続詞の and は、基本的に「単語と単語」や「句と句 (フレーズとフレーズ)」をつなぐ時はカンマが使われないが「文と文」をつなぐ時は、カンマが使われる。

<例> I like cats and dogs. (and で「単語」と「単語」がつながっている形)  
<私は犬と猫が好きです>

I want this red bag and that blue T-shirt. (and で「句」と「句」がつながっている形)  
<私はこの赤いカバンとあの青いTシャツが欲しいです>

I teach English, and he teaches math. (and で「文」と「文」がつながっている形)  
<私は英語を教え、彼は数学を教えます>

## Lesson 11-5: 様々なフレーズ⑨

### 1. anyone = (肯定文) 誰でも / (否定文) 誰も / (疑問文) 誰か

<例> I don't know anyone in this room. <私は、この部屋にいる誰も知りません>

#### 〔補足説明〕

anyone の代わりに anybody という単語が使われることもある (anyone の方が多少堅い表現)。また、anyone / anybody は、3人称単数扱いとなるので注意。Does anyone ~? (誰か~ですか?) の疑問文の答えは、一般的に I do (私、~です) / He does. (彼、~です) といった形になる。

<例> Does anyone want to go home? — I do.

<誰か家に帰りたいですか — 私、帰りたいです>

### 2. (on) weekdays = 平日 (に)

<例> The restaurant is open on weekdays. <あのレストランは、平日は開いています>

#### 〔補足説明〕

weekend や Sunday / Monday のように、平日は「日」なので、前置詞は on が使われる。

### 3. go ~ing = ~しに行く

<例> Let's go running. <走りに行きましょう>

#### 〔補足説明〕

~ing は、動名詞と呼ばれる形で「~すること」と訳される。そのため、go running は、直訳するなら「走ることをしに行く」というイメージになる。

### 4. (the) beach = 浜 / ビーチ

<例> I want to go to the beach. <私は、浜に行きたいです>

#### 〔補足説明〕

go to the beach という表現では、限定されている浜でなくても、the beach と the が使われることが多い。また「浜に」という場合、on the beach / at the beach のいずれかが頻繁に使われる。on の場合、砂の上にいるということになる。at の場合は、砂の上かもしれないし、海の中かもしれないし、浜のところにあるお店のなかかもしれないということになる。